

## ◆空自浜松基地自衛官人権裁判結審へ、裁判への支援を！

二〇〇五年一月に航空自衛隊浜松基地の自衛官Aさんが隊内での先輩隊員による人権侵害によって死に追い込まれた。Aさんは浜松基地の第一術科学校の整備部第2整備課動力器材班に所属する三等空曹であり、二〇〇四年にはクウェートに派遣されていた。帰国後、暴言暴行はいっそう激しくなり、Aさんは「うつ」状態になった。

二〇〇八年四月には遺族が静岡地裁浜松支部に、損害賠償を求めて国と先輩隊員を訴えた。それ以後、十数回の口頭弁論がおこなわれ、今年に入り証人尋問がもたれ、上司二人、原告である両親、元同僚、原告である妻と被告の先輩隊員と尋問が続いた。来年の三月には結審を迎える。

この裁判では、浜松で支援する会が結成され、傍聴席を埋めるとともに学習会や原告との交流会などをおこなってきた。それを通して遺族の名譽回復への熱い想いや沖繩出身の自衛隊員であった父の歴史的体験から学んだ。特に父親の、かつて沖繩から南洋に移住させられたが、戦時下、母が自分を守ったように息子を守れなかったという発言には考えさせられた。

去る二月六日には元同僚の尋問が行われた。元同僚は東北に住んでいるが、生まれたばかりの子どもを連れ、夫とともに浜松に来て証言した。かの女は証言の場で、真実を語りたいという気持ちとともに、自衛隊内でのセクハラなどによって人生設計を変えられたことに対して「けじめをつけたい」という思いを語った。この証言によって先輩隊員による暴言や暴行の実態がいっそうあきらかになった。

このように元自衛隊員や遺族が、真実をあきらかにし、尊厳の回復のために立ちあがっている。そこに人権思想の歴史的蓄積を感じる。この裁判への読者の支援を呼びかける（ぜひ同封用紙に署名して返送を）。

（竹内康人／平和・人権浜松）

浜 松

## 名古屋

### ◆二〇一一年も気を抜かず！

一年が経つのは早いもので、二〇一〇年もあと僅かになりました。先回の定点観測に書いたように、今年名古屋では生物多様性第10回締約国会議、韓国併合一〇〇年を軸に取り組んできました。COP10の方は、環境・人権・平和をキーワードに、沖繩からも多数来名され、様々な取り組みが行われました。一月の知事選の前には大田昌秀さんの講演会を企画し、改めて沖繩をアピールしました。県知事選は伊波波さん敗北という残念な結果になりましたが、この間の沖繩の運動が、仲井真さんも「県外移設」を言わざるを得ない状況にしたということを糧に、今後強まるであろう政府・与党の圧力に抗するような運動を作ることをはじめなければならぬと思っています。

一〇〇年運動の方は、写真展や「韓国併合一〇〇年のつどい」の開催、康宗憲さんの講演録を中心とした報告集の作成などを行ってきました。併合一〇〇年とうことで結成した会ですが、今後も会を継続し、なんらかの形で活動を続けていくという事は確認をしています。折しも、朝鮮半島では共和国・韓国軍との間で銃撃戦がおき、民間人の死傷者が出るという事態が起きました。報道を聞いて、一瞬「戦争になるのではないか」という切迫したのを感じたのは私だけではないと思います。今回の共和国の銃撃については、事前に演習の中止を申し入れていたとはいえず、一歩間違えれば朝鮮戦争の再来という重大な事態を引き起こしかねないという事を考えれば、非難されるべきものです。米韓・日米は挑発的な軍事演習を行い、在日米軍基地からは米軍がその演習に参加しています。民主党政権は、朝鮮半島政策でも旧自公政権と変わらない対応しかしていません。自民党すらやらなかった武器輸出三原則の解禁を検討するなど

の内容を盛りこんだ防衛計画の大綱と中期防の策定などをみると、私たちは二〇一一年も気を抜かず取り組みを継続していかねばならないと思う。

（山本みはぎ／不戦へのネットワーク）

観

測

## ◆沖縄は基地を甘(菅)受しません!

一月に咲いたトックリキワタの花(南洋桜とも呼ぶ)が今暫く目を楽しませてくれる。春先でもないのに寒暖の日を繰り返す一二月の空を低空ヘリが爆音撒き散らしながら飛んで行く。三〇日の日米共同統合演習では、嘉手納基地にPAC3が配備されてから初めてC・コートニーやC・シユワブなど中・北部まで展開、海上では、原子力空母ジョージ・ワシントンから戦闘攻撃機F A 18ホーネットの離陸訓練を公開するなど、米軍の存在と抑止力”をアピールした。お陰で嘉手納中の生徒達はテストを中断され、エンジン調整で発する悪臭に悩まされ、陳情を受けた町議会は訓練中止を求める抗議決議をあげた。

演習最終日に合わせたものか、尖閣諸島・南小島に石垣市議二名が上陸して、鯉節工場跡を廻ったり二時間でアカマチが大漁だったことなどを報告。市長は「尖閣の利活用について政府に提案したい」と、海人の漁の実態そつちのけで国防意識の発揚に余念がない。

政府の新防衛計画大綱に先島(宮古、与那国など)への自衛隊配備が盛り込まれたが、米軍の「友好親善」を掲げた民間港や空港への出入りが相次いでいる。一二日に宮古島で第七艦隊音楽隊による演奏会(八〇〇名参加)が開かれ、団長が「音楽を通して親善が深まった。近海は領土権問題があり抑止力が必要だ」とあいさつ。ところが迎えの輸送機にトラブル発生、降りて来た隊員の半数は岩国基地へ帰る海兵隊員であることが判明、元より空港の軍事利用を許さないと集まった人々の前に醜態を晒した。

仲井真知事の再任、宜野湾市長には安里猛氏当選で一勝一敗。県外移設を求める県民意識を反映して今や自公がグアム・サイパン・テニアンへの視察団を送り知事を後押しすると表明。県外移設が常識になりつつある沖縄に「辺野古の方が危険が少ない」などと一三年も前から糾されてきた認識を持ち込む菅首相、理解が足りない沖縄が言われ続けて来た言葉をそのまま返上したい。(島尻まーじ)

# 定点

## 沖縄

### 反安保実連続学習会「もうやめめよう!日米安保」PART 2

#### 第2回 「米軍は何のために日本にいるのか——米軍戦略の変遷と日米同盟」

【講師】 島川雅史さん(大学教員)

著書:『アメリカ東アジア軍事戦略と日米安保体制』

【日時】 1月22日(土) 午後6時より

【場所】 ピーブルズ・プラン研究所(地下鉄・江戸川駅より5分)

#### 第3回 「討論:軍事力による抑止を問う——軍隊体験を持つ者からの問題提起」

【討論者】 石田雄さん(政治学者)+田浪亜央江さん+杉原浩司さん

【日時】 2月26日(土) 午後6時より

【場所】 文京区民センター 3C(地下鉄・春日駅すぐ)

#### 第4回 「日米安保と天皇ヒロヒト」

【講師】 天野恵一(反安保実/反天皇制運動連絡会)

【日時】 3月26日(土) 午後6時より

【場所】 ピーブルズ・プラン研究所

占領終了後も60年以上に渡り駐留し続ける在日米軍。冷戦終結以降のアメリカの軍事戦略の変遷のなかで、在日米軍の役割はどのように変化してきたのか。領土問題が噴出し、「抑止力」幻想が跋扈する中で、何のために米軍は日本に駐留し続けるのかをあらためて検証する。